



非常に眠たい時間と思いますが、私の持ち時間はわずか50分でございますので、ひとつよろしくお願いをしたいと思います。

先月の2月の26日に市長選がございました。対馬の今後を思って3人の方が立候補をなされました。いろいろと話はございましたが、停滞から前進へとか、また3つの病院の存続などなどの政策を掲げて選挙戦に挑まれたわけでございますが、何としたことか、この4年間の無駄を築いた現職が1万44票で当選をされました。これは有権者数から見ますと、有権者数が2万8,426人、この割合からいきますとわずか35%の支持でございます。そして、有効投票数2万2,777から計算をいたしますと、これも約44%、過半数を大きく割っての当選でございます。

まず、今回の選挙の大きい争点というのは、やはり新病院の建設の問題、これに尽きるのではないかと思います。選挙の結果、56%以上の市民が、病院問題については、3病院の存続、また凍結という意思表示をされたわけでございますが、この市民の意思表示を尊重して、新病院の建設を再度検討される考えはないのかということについてもお尋ねをいたします。

去年の12月の議会におきまして、私はここの席で一般質問をさせていただきました。そのときに財部市政の4年間は全くの無駄だったという一字をここに掲げたわけでございます。今回は、さらに4年が追加されますと合計8年、無駄の無にならないようお願いをしたいと思います。

先ほど、2月の新聞に、これは朝日新聞でございますが、日付が2月の28日、市長が当選証書を受けられたときのインタビューでございます。ここにはこう書いてございます。「自身にも負荷をかけるが」ということです。自身というのは自分自身だと思うのですが、「自分自身にも負荷をかけるが、市民にも汗をかいてもらう」。「自分自身にも負荷をかけるが、市民にも汗をかいてもらう」という発言をされておられます。この発言は、官尊民卑というんですか、この最たるものだと思うんですが、ここでいう、この汗をかけということを言いますが、私はこれは逆じゃないかと思います。まず、自分自身が汗をかいて、そして市民の皆様にも汗をかいていただくというのが一般的な考えであろうかと思います。

そして、この汗を、自分が背負うという話の中で、私も前回のときにお話をしましたが、市長の退職金2,000万円を50%ぐらいカットして1,000万円にするという考えも、この自分自身にも負荷をかけるという中に入っておるのかということについてもお尋ねをいたします。

では、さきに通告しておりました3点について、市政一般質問をさせていただきます。

まず、第1点の今後4年間の市政の取り組みについてでございます。

これは2つございます。まず1つが、選挙公約の実行について。これはこの4年間、市長が企業誘致ということをやっておられましたが、その実績はないわけでございます。しかし今回は、対馬の森林資源を生かして木材や水を韓国や中国に輸出をするんだと。そして、そこで雇用を生

み出すという公約を上げておられました。御案内のとおり、公約というのは市民との契約書でございます。この契約書をどういう形で実行工程に上げていくのかという件について一つ。

そして2つ目が、今回は立候補された方、あと2人ございますが、それぞれのすばらしい政策も上げておられます。この政策を生かす考えがあるのか、ないのかについてもお尋ねをいたします。

それと、大きい2点目ですが、市の財政について。これは選挙前の2月10日に交流センターで立候補予定者3人の方が公開討論をされました。この中でただ1人だけ、市職員の給与を20%カット賛成と胸を張ってパネルを上げておられましたが、これを今後どういった形で取り組んでいくのか、生かしていくのかという点です。いいですか。

そして3点目ですが、これはこの4年間の私の一般質問の総括でございます。これについては2点。

まず第1点は、今の指名願については、毎年毎年提出でございます。これを2年にしたらどうかという話をしておりました。検討をするというお話でしたが、どう検討をされたのかというのと、あと1点は、ツシマヤマネコの保護活動において、ツシマヤマネコの記念日をつくったらどうだろうかということも私が申し上げておりましたが、この検討はどうなったのか。この大きい3つでございます。市長の答弁を求めます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 小宮教義議員の質問に答えたいと思います。

通告に入る前に、今までの4年間の総括をしていただきました。無駄を築いてきたというふうにおっしゃいましたが、私は決してそうは思っておりません。それについては明らかに見解の相違かなと思っております。

新聞報道のコメントで、「自分自身に負荷をかけ、市民の方々にも汗をかいていただきたい」というふうなコメントの部分ですが、私自身この4年間、自分自身にも負荷をかけてきたつもりですが、私はそのコメントの中には、自分にはもっと負荷をかけるという意味でコメントをさせていただいたつもりでございます。当然負荷をかければ汗もかきますし、それ以上に自分の能力を最大限発揮していきたいというふうにも思っております。

それと、退職金のお話がありました。まだ全くもらっておりませんし、まだ1期目の任期途中ですので、どういう金額が入るかもわかりませんが、少なくとも今小宮議員がおっしゃられた2,000万という金額をおっしゃいましたけども、そういう金額は到底入ることはあり得ないと思っております。

では、通告に従いまして、説明、答弁をさせていただきたいと思えます。

まず、1点目についてですが、今後の4年間の部分でございます。私自身は市民の方々に今回

5つの地域資源の循環システムというものを提示させていただきました。このシステムについては、市すべて総出でこれにかかっていきたいと思っておるということは先ほどの脇本議員の質問の際にも若干触れさせていただきましたが、この5つの循環システムについて、3月1日に幹部職員に説明をし、そして今後市として2期目はこれで走り出すということで、既に動き出してる部署もあるところであります。

そういう中、5つのこの循環システムの中の森林資源を生かし雇用を生み出すという部分について、その実行工程はいかかなものかというふうに御質問が1点目には通告がっております。

それについて答弁をさせていただきますが、これにつきましては、林産物の循環システムというもので雇用創出をつくり出して、島外からの外貨といいますか、島外からそういう収入を得ようじゃないか、獲得していこうじゃないかという考え方です。

これには、水ビジネスというものに参入をしていくこと、さらには、そのためにも森林資源を有効活用をしていくというふうな絵を皆さんにお示しをさせていただいたところであります。

1点目の水ビジネス参入の問題でございますけども、これにつきましては、先ほど議員がおっしゃられましたように、韓国、中国の水事情等々を考えますと、私どものこの森林資源がはぐくんでおります水というものを私たちのこの地勢的条件というものを有利に働かせていき、そちらに運び込むということが私どもの生き方、生き延びていく、自立していくためにも必要だというふうにも思っておりますし、その水ということ考えたときには、森林資源をきちんと保育していくという考え方、これが雇用も生み出すことにもつながるという考え方を私自身は組み立てておるところであります。

今後、国、県、それから森林組合等々ともそのあたりのどのような保育のあり方、施業のあり方というものを組み立てていきたいと思っておりますし、現在、約年間500ヘクタール施業をしておりますけども、その施業の面積をどのようにふやしていけるかとかいうことも当然考えていきたいというふうに思っております。

ただ単に水ビジネスのみならず、この森林資源を生かした循環というものの中には、当然のことながら、材そのものの使い方というのでも出てきます。現在、A、B、Cで等級分けしますと、B級品、C級材等々についても、韓国での需要というものは見込まれます。そのあたりもにらみながら林業というものを組み立て直しをどんどんしていきたいと思っておりますし、この3月の5日からワンフロアーの関係で県の対馬振興局の林業課、それから農林整備課が私どもの庁舎内に入ってきていただいておりますけども、一体となって物事を組み立てていきたいというふうにも思っております。

さらにその材そのもの話になりますと、上海、さらに釜山、こちらで和風建築を建て込んでいくということも視野に入れたいと思っておりますし、釜山市長のほうも1月14日、15日に

対馬にお見えのときに、土地について提供をしていいと、そしてそこに建て込んでいただいても構わんだというふうなことで、候補地等を今釜山市のほうも選定をしていただいております。

また、上海については、昨年9月末でしたか、上海市のほうに訪れた折も、向こうにおける和風建築物というものが別荘として求められているというお話がありました。そのモデル住宅等も建てていいんだというふうなお話もいただいております。

今後4月になりますと、中国のほうから、私どもの市には国際交流員が来る予定であります。その国際交流員を介して、またそのあたりの事業の速度を速めていきたいというふうに思っております。

また、この林産物に関しますと、林地残材という問題が大きな問題です。この林地残材を有効活用を図っていくことがこれからの対馬にとってすごく大切な部分でありまして、30%から40%というものは林地残材となっております。それらを有効活用していくためにチップの問題、ペレットの問題等々をしっかりと市民全体、一緒になってから組み立てていき、そしてそれが雇用を生み出していくというふうな方向性をつくり出していきたいと思っております。

また、新たな新病院の分につきましては、バイオマスボイラーを導入をしていただきたいということで話を進めております。そのことによっても当然チップ等がそちらで恒常的に使われるということになりますし、どんどんこの島内で消費をされていくことを考えていきたいと思っております。

そのチップの値段と、それから化石燃料の値段がイコール以下であれば、最も喜ばれることであらうと思っておりますし、仮にそれが化石燃料よりも高くふったとしても、そこに対馬の中での雇用が一定の人数できるということになれば、市民の皆様も納得していただけるのではないかとこのふうにも考えております。そのあたりについては、市民皆さんと一緒に、そのあたりのコンセンサスをとっていかないといけないと思っております。

それと、林産物の循環システムの中には、議案説明の中でも若干触れさせていただきましたけれども、この24年度からの基金条例であります対馬市森・川・里・海環境保全再生基金条例というのを上げておりますけども、そちらのほうに流し込んでいくためにJ-VER制度、要するに市場からの資金を獲得していくというのを進めております。二酸化炭素吸収というもの、これを資金に変えていくという制度に昨年から取り組んで、いよいよ24年中にその市場に排出権を取引する形にまで整いました。それらも今後の森林を扱っていくためにも市民の皆様も、また新たな切り口が出てくるのではないかとこのふうな思いを持っております。

また、詳しい内容につきましては、再質問のときに、また答えさせていただきたいと思っております。

2点目の今回選挙でのほかの候補の政策を活用する気持ちはないかという、生かす方法はない

かという御質問がありました。質問の中でもありましたように、公約というのは市民との契約であります。私は他候補の公約というものを活用しますという公約は全く入れておりません。まずもって、自分がお示しを市民にした部分についてしっかりと取り組んでいくということが、市民への契約履行していくすべだろうと思っておりますので、しっかりそちらに取り組んでいきたいと思っております。

それから、2月10日の公開討論の席での問題でございますけども、丸バツクイズの回答の部分を今小宮議員はおっしゃっております。確かにあのとき人件費削減に関する質問が1項目ありました。おそらく二十数項目か30項目、短い時間でぼんぼんありましたが、あのコーディネーターをされた方が、あのクイズが始まる前に、一呼吸入れて全く違うあれでいきましょうねっていうことを、観客の皆さんにも私らにも言われたってというのは御存じだと思います。そういう中で答える人、答えない人、全体の質問に対して半分ぐらいしか答えないとかいう方もいらっしやったようにありますが、私はまじめにもすべて丸かバツをつけさせていただいたところであります。

そういう中、その人件費の問題、20%カットということがございました。私はそのときぱつと考えましたのは、当然今国のほうでも論議をされております労働基本権の問題、これが労働基本権の付与という問題が起こりますと、当然のことながら20%とか何%になるかわかりませんが、これから労使協定の中で物事が決まっていくということになればおのずと下がるというふうには考え方を日々、日ごろから私は持っておりましたので、すぐに丸をつけたところであります。

また、人件費総額というものは明らかに下がってきておるといことも御承知だろうと思っておりますけども、定員も削減し、やっておりますので、しっかりと今後も定員、職員の適正化計画の中で取り組んでいきたいと思っております。

また、次の入札参加資格の有効期限を1年を2年に変更する考えはないかということでございました。この件につきましては、昨年やはりこの3月の定例会のときに、全く同じような御質問をいただきました。

そういう中、ほかの13市の状況というのも調べてみました。すべてがそれを2年でやってるというわけでもありませんが、私は物品役務関係については取り組んでいけるのではないかといいうふうな思いは持っております。そういうところで物事を進めていければと考えてはおりますが、最終結論はまだまだ出してるわけではございません。

それと、ツシマヤマネコの記念日のことがありました。これにつきましては、一昨年の6月の定例会において御質問がありましたけども、この24年から環境省が中心となって、野生順化施設を対馬南部のほうにつくるということになっております。野生順化施設といいますと、御存じ

のように、野生に復帰させるための施設であります。その施設ができ上がりますと、ツシマヤマネコを放獣する日も出てくると思っております。そのようなとき、まさに改めてツシマヤマネコがふえていく記念日になるのではないかというふうにも思っております。

以前おっしゃられたのは、天然記念物に指定をされた日を、5月19日をその日にしてはどうかということもございました。今回の国が取り組んでおります野生順化施設の成果というのを見ながら、次のおっしゃられた記念日の創設ということを考えていけるのではないかというふうにも思っております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） 先に最後の分から行きたいと思いますが、この指名願関係ですが、物品については検討してみようというお話ですね。

それとヤマネコの記念日、これも復帰作業もこれから始まりますので、早い段階でヤマネコのPRをするためにも、この記念日の創設をさらに検討を重ねていただければと思います。

では、冒頭から、この4年間の市政の取り組みということで話させていただきました。前段の話で、私がこの新病院問題、これについては56%の方が意思表示をされたと、それについて再度検討をしてみたらどうかというお話いたしました。その分についてはどうでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この病院の問題につきましては、議会とも何度となく話をしてきた問題でありますし、病院企業団の経営ということの中の一つの方向が出されたものであります。私どもの与えられた部分というのは、場所選定に関する部分だけであります。3病院を2病院にしていくんだという方向性は企業団で出された問題でございます。そこを市民の方たちに懇切丁寧に伝えていくことができなかった部分が、今回このような選挙の結果だというふうにも思っております。それを今の時点で私どもの対馬市の時点でどうのこうのしていくということは、いささか筋違いではないかというふうにも思っております。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） この新病院の問題については企業団の問題であるから検討する必要はないという話でよろしいですね。

それで、この新病院問題については先ほど申しましたが、選挙の争点でございました。市長はその中で、ここにこのようなチラシがあるんですが、既存の公立3病院存続では対馬の医療は崩壊しますと。この下のほうに、新病院建設によって、厳原、上対馬の病院はなくなることはありませんと、こういうふうなものが新聞の折り込みに入ってしまったわけです。これは市長の後援会だ

と思いますが、書いてありますから。これを見た、特に巖原の市民は、病院は残るんだと、これを見ればそう思うわけですよ。病院はなくなることはありませんというふうに書いてあるんだから、それも後援会は市長の後援会ですよ。これを見た市民は、特に巖原の市民は、あ、病院は残るんだと、残るんですねということで私のところにも連絡がありました、電話がございました。いや、基本的には病院は残ることはないんだと、統合して1つにするんだからというお話をしますが、この中で残すということであれば、法人のほうに今お願いをしておるんだと、そういう形で残すんだという話ですが、仮にこういうチラシまで入れて、そして法人と今交渉しておるんだと、ケアミックスとなるものでも残す考えがあるということで発言しておられますが、もしそれがだめなときにはどのような責任をとるんですか。市民にこういうことを言っておるんだから。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 11番議員の質問は、いつも感じるんですが、両極端過ぎるのではないかなと思っております。お互い市民の今の問題については、命を守っていくためにお互いでどうしていくかということをお互い組み立てていくのが筋ではないかと。私の首をとることがあなたの仕事ではないと思うんです。そこを私はどうかあなたの今の発言ではいささか感じられて仕方ありません。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） 首をとるとかそういうものじゃなくて、政治家というのは言ったことには責任を持たなければいけないんですよ。責任を持つのが政治家の仕事なんですよ。このような形ではっきりと残すように努力しよるんだと、じゃ、それがなくなったとき、できなくなったときには責任をどうとるんですかというお話なんですよ、私の言うのは。何ら首をとるじゃなくて、それだけまた市民の方に迷惑かけるわけですから、期待したものがなくなるんだからということです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今おっしゃられるように、物事は言葉として出した部分について、市民に対して公約として出してるものです。おのずとそのことについては選挙民がきちんと判断をしてくることだと思っております。私はその方向に向かって今最大限の行動を起こしておるというだけであります。

私のほうからよろしいですか。（「反問権はなし」と呼ぶ者あり）いえいえ、反問ではありません。この問題について、昨年3月18日に、場所を決定した際についても、それまでの説明を議員の皆さんと説明し、3病院を2病院にしていこうという方向性は皆さんと合意を固めて物事は進んだものであります。そして、3月18日、場所決定をさせていただきました。閉会の

あいさつで私はここで言いました。11番議員もその問題については拍手をして喜んでいただいたと、私は何度も議会でも申し上げておるところであります。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） 大変な誤解ですけどね。約束というのは、ある程度果たさなければなりません。言われるように、この病院問題が今回の選挙の大きい争点だったんです。その争点の中において、確かに言われるように議会とはいろいろ話をしながら進展はしたけれども、大きい争点の中で56%以上の市民の方が見直してみたらどうかというふうな意思表示をされたんでどうかなというお話しとるんですよ。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私は全体の中で、有効投票総数の先ほど44%というお話がございました。確かに有効投票数の過半に行っていないのは、それは44ですから事実です。選挙というものの争点というのが、一番大きな争点は確かにそうであったかもしれませんが、4年間というものを市民があずける際に、全体の政策の中で物事を判断されてる部分もその中には当然あると私は感じております。そして、この対馬の場合、さまざまな地縁、血縁の関係等々もあり、その率になったものと解釈しておりますし、私は3病院を2病院にすることが対馬市民の命を守ることであるという信念を持って進めております。公立病院は2病院でしか生き残っていけない。

先ほどの糸瀬議員の答弁の中でも、たまたま昨日来ました対馬出身のお医者さんの手紙の中にも、公立病院が今後生き残っていけないという状況は、あの大都会の埼玉でもそういう状況なんだというふうなことが書いてあります。そのために、厳原地域の医療を守るためにケアミックスという方法で厳原病院を次の使い方をやっていくということを私は昨年3月18日から皆さんに申し上げてきたところであります。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） もう時間がありませんから次のに移りますが、この市の財政についてということですが、討論会では、20%カットという話をいたしました。そして、この池田コーディネーターが質問の内容では、こういうふうに言っとるんですよ。財政が厳しいのだから対馬市役所も給料2割カットしてみたらどうかと、すべきじゃないかということで、そのときに私はびっくりしたんですが、2年前までその5%カットを取りやめたのに、今回ぴしゃっと毅然とした態度で賛成だと、私はあの姿を見て市民の方は非常に感銘を受けられたと思います。

そういうふうな質問で、ただ1人だけ賛成ですよ。そしてもう1人の方は条件つきだけれどもということでしたけれども、賛成はされませんでした。冒頭の行政のあいさつでもございましたが、この財政は非常に厳しい、財政難でしょ、どのくらい厳しいのか。厳しい、厳しいといってもなかなか数字を並べるとわからんわけですが、どれほどの、どの分野がどれほど厳しいのか。例え

ば、よく言われるのが夕張の次じゃないかという話されます。じゃ、1人当たりの借金が今どのくらいの順位にあるのかとか、財政力指数がどれだけあるのか、そして公債比率は今どうであるのか、今後どういうふうな流れになっていくのか、その3つをまず数値的に厳しいというならば、御説明を願いたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 十分に小宮教義議員は財政のことをわかってあるから、説明するまでもないと思っておりますが、地方交付税に専ら頼っておるこの対馬市において、その分母であります地方交付税の金額というものに左右されてきます。そういう意味において、国の経済状況、そして地方交付税特会の数字等々によって、大幅にその見通しは変わってくるということは小宮議員はもう御存じのとおりでありますし、既に私どもの厳しさというのは、その依存している部分での厳しさがあると、あまりにも依存が一番大きいのではないかと、それをどのように薄めていくかということに時間をかけて取り組んでいくことが、これからの対馬の課題であろうと思っております。

1人当たりの借金の総額等々、額につきまして、後の数字については総務部長のほうから答えさせます。（「あ、いいです」と呼ぶ者あり）

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） その3点の数字については私も調べておりますので申し上げますけども、まず、この1人当たりの借金、これは対馬市は、これは2010年の2年前のやつですけども、金額的にはそう変わりませんから、多分この金額でいくと思いますが、例えばこの長崎県の13市、これを取り上げてみますと、対馬市が約156万4,000円です。そして次に多いところが五島なんです。五島は約対馬の半分です。99万円ぐらいしかないんですよ。一番低いのはどこかという、これは大村です。31万9,000円ですよ。約30万円。これを全国的に見てみると、全国の市がいっぱい市がございますが、夕張を省くとワースト1ですよ。これだけ厳しい状況なんです。せめて五島ぐらいの半分ぐらいまでは持っていかなと厳しいと思います。それがまず一つの厳しさ。

それと財政力指数ですが、これは毎年毎年落ちてきています。22年度の決算では、0.19ですよ。それだけ税収も少ないわけですから、今のうちに手当てをしていなければ今後大変なことになるんですよ。公債比率もそうですけど、確かに12.8を決算したけども、この26年から5年間、交付税がどんどんなくなりますが、それについては、市長はたしか私が一般質問で9月か何かしたときには、5年間の間に交付税が100億近くなくなるのではないかと話されましたよね。それだけ厳しくなるんですよ、これからどんどんと。

ならば、私がいつも申し上げるように、2割は別にしても、今国が7.8%カットしました。

もう決定したわけですから、せめて1割程度国に倣って、国は震災に充てるお金ですけども、対馬市はそれだけカットして、そしてこんなにワースト1の市なんですから、そこを早く償還をすると、今でも金利は7億1,000万払うんですよ、年間、利子だけで。それだけ払うんですから、縁故債をある程度消化するように、7.8%カットして、そういう考えないんですか。何回も何回もこれ言いますが。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今この何年も縁故債については繰り上げ償還をたびたび行ってきたところであります。銀行のほうも、ほとんど銀行ですけども、銀行のほうもこれ以上っていうぐらいに、私どもも金が若干でも余裕が出ますと縁故債の繰り上げ償還に取り組んでおります。これからもわずかでも余裕財源が見つかりますと、縁故債の償還に充てていきたいというふうな思いは全く変わりません。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） では、国に準じて7.8%のカットはどうなんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 11番議員おっしゃられたように、7.8というのは、あくまで目的の、東北震災に向かつての話で私は聞いております。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） じゃ、次は、この水資源の関係なんですけど、確かに水ビジネスをされると言われる。今のところの実行の工程としては、組み立て作業を先にするというお話ですよね。組み立てをこれから行っていくんだと。しかし、雇用という面をうたっておれば、あらかじめのベース、例えば水であれば年間何万立米の水を出すような計画になる、基本的なものがあるのか、それと木材であれば、確かにA、B、Cランクあります、丸太にすれば。B、Cのランクのやつを年間どれだけ輸出をして、そしてどれだけ雇用を生み出すのかというベースがなければ組み立てはできないわけですが、その水と木材の基本的なベースはどのようなお考えですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） まず、水の部分でありますけど、まずもって今輸出しております水というものが、未来永劫それは、上にあります山の保育施業等をきちんとやっていった場合、どれだけ保てるのかということとすぐに調査にかかりたいというふうに思っております。新年度になって、予算も計上したいと思っております。

そして、それで方向性、何年、10年、20年もつよということであるならば、おそらく数億円の資本投下になろうかと思っております。それに伴って、そこから湧出しております日量280トンの約半分近くを利用したいというふうな考えを持っております。

そして、それによりまして、機械の稼働時間にもよりますけども、10人から50人の範囲で雇用は見込めるのではないかというふうに思っております。その単体だけを考えればですね。

そして、林業の部分でありますけども、林業につきましては、現在も施業がどんどん進んでる部分ではありますが、今後もその勢いでやっていった場合、林業事業者がふえてくるだろうという見込みを今主管課のほうもしてくれております。そして、50名から100名程度の増加になっていくものと、確保ができるものというふうに思っております。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） 水の問題は50人程度雇用をするということですが幅があります。しかし、まず物事をするときには、世界の市場がどうなのかということをもとらえんといかんと思います。今は水の生産は日本の国が輸出してるのは、生産のわずか0.05%なんです。それだけ厳しいんです。そして韓国に輸出するというけども、韓国も済州島が来年度からまた日本に30万トンぐらいの水を輸出するんですよ、それも安い、リッター17円です。そういう大きい市場をまず把握をして、そしてどういうものの流れに組み立てていくのか、そういうことをしなければいけないと思います。そして全体的な流れをつかんでいくと。

木材にしてもそうですよ。木材は確かに中国は丸太関係含めて自給率は10%です。非常に少のうございますが、しかし、日本の丸太もそう要るもんじゃないんです。Bランク、Cランクが。非常に少ない。だから物事組み立てるときには、まず世界の市場はどうか、アジアの市場はどうか、そういうところを細かく分析をしていって、言われる50人とかを決めていかないといけないと思います。

木材もそうですよ。1人の人が1日にするのは、できる立米数はわずかなんです。これからすると50人ということは、年間に多分4万ぐらいか5万ぐらいの立米数の出しになるわけですから、それだけのものが出せるわけじゃないんです。もっと基本的なベースをもっと的確につかんで、そして組み立てるならばそう願いたいと思います。その辺はどうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） まず、水の問題でございますが、細かい調査が必要なのは当然であります。少なくとも私どもの地域資源がこういうものがあるというふうなことをきちんと市民のほうもわかっていかないといけませんし、対馬の生き方として、そういうことも模索していくということがすごく大切だというふうに私は思っております。そういう意味において、少なくとも280トン輸出しているその水を利用した場合は、これぐらいの幅で10人から50人の雇用というのは創出できるんだというふうな話をさせていただきました。

それと済州島の話でございますが、済州島については、韓国本土へもう出せない状況が生まれてきているという情報も私のほうには入ってきております。そういう意味において、韓国本土の

ほうは新たな水を求めてきておる部分もあります。

あと、今おっしゃられた10数円の、19円という単価というのに対抗していくためにどのようにしていけばよいかというのはお互いが知恵を出さないといけないと思っておりますし、全体で一つの事業だけを見たときに赤字が出る、しかしそれをすることによって林業の施業が進むことによって、今度は雇用が生まれてくるとかいうことになったときに、そこ全体の中でどれだけのプラスに効果が出てくるかという見方をしていくのが、これからその循環の中で物事を組み立てていく大事な方針になっていくのではないかというふうにも思っております。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） そういうふうにして公約があるわけですが、公約が無駄にならないように、言うだけ言うて終わるといことがないようにお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（作元 義文君） これで11番、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を2時15分から行います。

午後2時02分休憩

午後2時14分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） それでは、通告に従い、市政一般について質問を行います。

第1点でございますが、対馬の高等学校の選択科目について、市長の御意見を伺いたいと存じます。

対馬3高等学校の入学試験における志願倍率は次のとおりであります。対馬高校普通科定員160人に対し134人の志願者、競争率0.9倍、商業科定員40人に対し37人、0.9倍、豊玉高校普通科80人に対し15人、0.2倍、上対馬高校普通科80人の定員に対し43人0.5倍となっております。この数字は、3月7日放映のCATVによるところをメモにしたものでありますが、対馬の過疎化がこのように至った一つの原因と思っておりますが、3校の存続の危機をだれもが心配するところでもあります。

ちなみに3校の卒業生の島内の就業状況は、22年度実績でございますが、対馬高校が19人、豊玉高校が11人、上対馬高校6人となっております。あまりにも少ない実態にこの島の将来を心配するところではありますが、何か策はないものかと思う次第であります。島に仕事がない、島で働く魅力がないなどの理由で本土へ巣立っていくのでありましようが、果たしてそれで済ませ